＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

|  |
| --- |
| 株式会社第三者評価機構　神奈川評価調査室 |

②施設・事業所情報

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 名称：ペニーレイン | | 種別：共同生活介護 | |
| 代表者氏名：平林　光 | | 定員（利用人数）： ７名 | |
| 所在地：神奈川県川崎市多摩区中野島4-3-30 | | | |
| TEL：044-819-5206 | | HP：<http://www.nagomi-fukushi.or.jp/ayu-kobo/grouphome.htm> | |
| 【施設・事業所の概要】 | | | |
| 開設年月日　平成３０年１２月１日 | | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人なごみ福祉会 | | | |
| 職員数 | 常勤職員： ３名 | | 非常勤職員 ２９名 |
| 専門職員 | （専門職の名称） | |  |
| 生活支援員１名（３兼務） | | 生活支援員（１９兼務） |
| サービス管理責任者（２兼務） | | 3 |
| 施設・設備  の概要 | （居室数） | | （設備等） |
| ７室 | | 浴室２、食堂、トイレ２ |

③理念・基本方針

|  |
| --- |
| (1)理念  共に生き、共に育つ  　障がいの有無に関わらず地域であたりまえの生活を  (2)基本方針  1)わたしたちはすべての人の尊厳、生きる権利を重んじ、障がいや疾病を理由とした差別のな  い地域社会を目指す。  2)一人ひとりの多様な個性を認め合い、障がいの有無に関わらず共に生活ことを通して共に育  つことを大切にする。  3)障がい児者が地域で安心して生活できるよう支援し、環境の整備に努力する。地域諸団体の  行事への参加、地域の企業や商店街との結びつき等地域との連携に努力し、障がいを持った  人たちの存在の認識を地域に広げる。  　4)一人ひとりの特性、特技を生かす活動を通して、喜び、感動を共にする。共感する喜び達成  する喜びを通して、信頼関係を築き自分への自信（自己肯定感）を育てる。  5)障害福祉の制度改革や障がい者の権利拡大のために、関係団体と連携し国自治体、地域に働  　　きかけを行う。 |

④施設・事業所の特徴的な取組

|  |
| --- |
| 1. ひとりでは難しいことは職員が手伝い、それぞれの方に沿った自立を模索しながら、地域の中   で暮らしていくことをサポートしている。   1. 日帰りや1泊旅行を行っている（今年度コロナ禍のため延期中、昨年度は日帰りのみ実施）。案内板に掲示する等職員も盛り上げを図っており、聞き取りでは「楽しみにしている」と頻回声が」あがっている。   3) アレルギーや衛生・健康面に配慮した、調理担当者による手作りの夕食を提供している。  4) 体験入所を実施している（今年度コロナ禍のため、緊急時・入居前提の体験のみ実施） |

⑤第三者評価の受審状況

|  |  |
| --- | --- |
| 評価実施期間 | 令和３年９月１５日（契約日） ～  令和４年３月１５日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | １　回（　平成３０年度） |

⑥総評

|  |
| --- |
| ◇特に評価の高い点  （１）同じ屋根の下に住んでいても一人ひとりの個別性を際立たせています  定員7名に対し７名の入居者が暮らしています（内１名は最近入所したばかり）。全員の聴き取りが可能でしたが、一般就労や趣味芸事、作業現場によって帰り時間がまちまちで、訪問前にそれぞれのシフトを確認して当日の聴き取り対象者をお願いした次第です。定員も多いことから、1階、2階ともにトイレ、浴室があり、同じ時間帯にかぶってもどちらかを利用できる住環境を整えています。とにかく若々しくはつらつとした利用者集団であるものの、それぞれが生活スタイルを確立させ自己アピールも上手なことから　個別性が際だっていて希望があれば将来的に一人暮らしも可能と思われる利用者もいます。   1. 情報が一元化され、サポートが速やかに実現しています   そもそもは職員数が不十分なための対策でしたが、管理者が６棟あるグループホームを統括、サービス管理責任者が一つひとつを巡回することで情報の一元化が成されています。管理者はサービス管理責任者からの昇格で利用者、家族、職員とも馴染みの関係にあり、現任のサービス管理責任者と職員の支えもあって、利用者や家族の希望や困りごとに速やかに対応することが叶い、内容によっては個別支援計画に反映させています。  ３）地域資源が豊富で、法人内の施設に隣接していることから安心、安全の環境にあります  ペニーレインは住宅街の一角にあり、スーパーマーケットやコンビニエンスストアも近く、利用者殆どが自ら電車に乗って買い物に出かけることができるため、最寄駅からも徒歩15分圏内は利便性が高いといえます。また同法人事業部の本体施設である多摩川あゆ工房が脇にあり、防災の観点やからもそちらにも避難可能となっていて、協力体制が敷かれていることで安心な環境にあります。  ◇改善を求められる点  一般就労や趣味芸事、作業現場など外活動の充実により一人ひとりの表情は満たされてはいるものの、能力的には地域に戻ることも可能と目される人も多く、将来的に一人暮らしを希望している利用者や、在宅支援があれば一人暮らしも可能と思われる利用者への意思確認や環境設定などの洗い出しを進めるためにも、定期面談の計画と実施を期待します。 |